

所沢市地域公共交通計画の策定について

各種調査結果、分析結果、課題の整理

1. 各種調査概要
2. 市民アンケート調査
3. ところバス利用状況調査
4. 公共交通事業者ヒアリング調査
5. 市内企業・事業所アンケート調査
6. 各種調査結果からみた課題
7. 今後のスケジュール

令和3年度第4回所沢市地域公共交通協議会
令和4年2月4日（金）

1 各種調査概要

地域公共交通計画の策定に向けて、市内の公共交通の利用状況及び課題を把握するため、4つの調査を実施した。

調査項目

調査名	調査項目
市民アンケート調査	<ul style="list-style-type: none">• 移動特性• 各公共交通機関の利用状況• 公共交通へのニーズ
ところバス 利用状況調査	<ul style="list-style-type: none">• 路線・区間・時間帯別の利用者数• 利用頻度、利用目的
公共交通事業者 ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none">• 利用者の特徴、利用目的、新型コロナウイルスによる影響• 運転士の確保、運行上の安全面や待合環境
市内企業・事業所 アンケート調査	<ul style="list-style-type: none">• 送迎車両の運行の有無

2 市民アンケート調査

調査概要

調査目的	所沢市民の日常生活の交通行動、公共交通の利用状況などを把握
調査対象	所沢市に居住する市民（2,000世帯）（1世帯に2部ずつ調査票を配布）
調査方法	アンケート調査票を配布し、紙またはWEBで回答
調査日	12月14日（火）郵送 調査票の郵送締切：12月27日（月）、WEB上の回答締切：12月31日（金）

調査項目

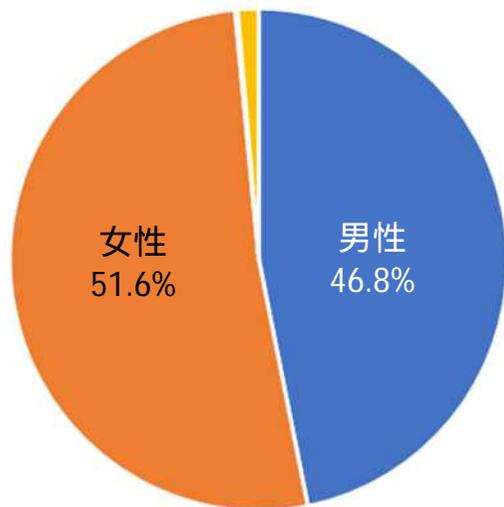
属性	性別、年齢、職業、運転免許証の有無、等
移動特性	買い物時の移動、医療機関利用時の移動、通勤・通学時の移動、等
路線バスの利用状況	利用する路線・バス停、時間帯、利用頻度、改善して欲しい点、等
ところバス・ところワゴンの利用状況	利用するコース・バス停、時間帯、利用頻度、改善して欲しい点、等
鉄道の利用状況	利用する路線・鉄道駅、時間帯、利用頻度、改善して欲しい点、等
新たな公共交通サービスの利用意向	キャッシュレス決済利用の現状、新たな公共交通サービスの利用意向、等

2 市民アンケート調査

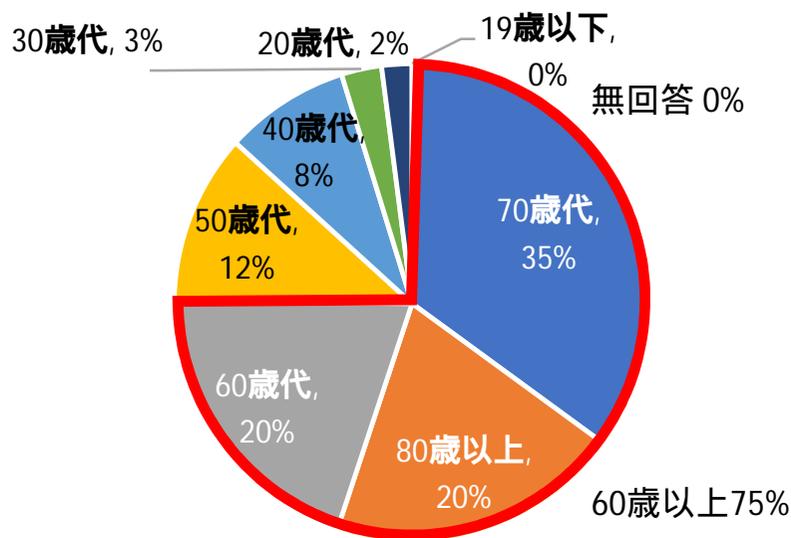
回答者属性

- 回答者の性別は、男女がほぼ同数である。
- 年齢は70歳代が最も多く、次いで80歳以上、60歳代となり、60歳以上で全体の約75%を占める。
- 運転免許証の有無について、約半数が日常的に運転すると回答している。

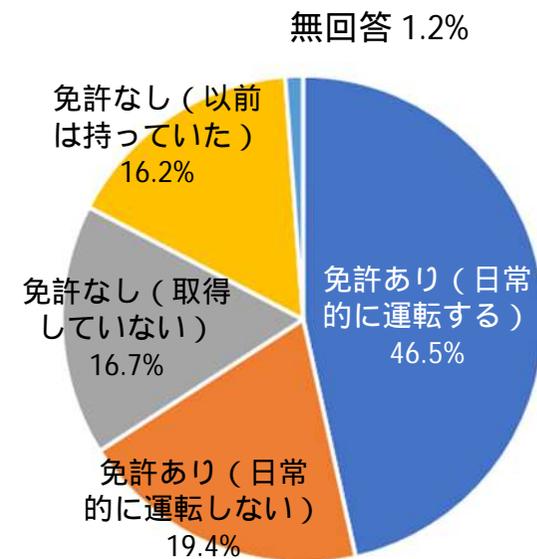
回答しない0.2%、無回答1.4%



回答者の性別 N=587



回答者の年齢 N=587

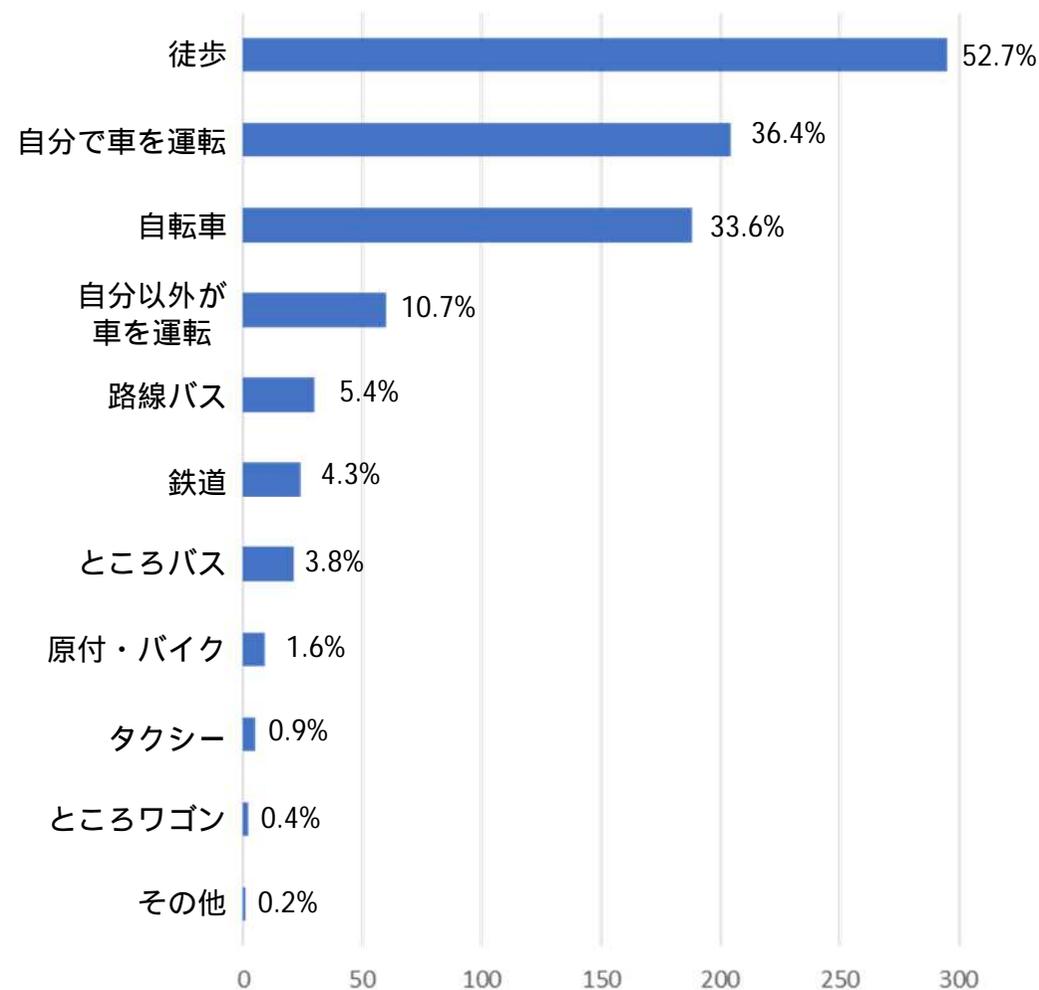


免許証の有無 N=587

2 市民アンケート調査

日常生活における移動手段：買い物

- 買い物に行く回答者 = 560人
- 買い物に行く際の移動手段として最も多いのは「徒歩」（52.7%）である。行先のアンケートから日常的に徒歩圏にある店舗を利用している。
- 「自分で車を運転」（36.4%）、「自転車」（33.6%）が続いている。
- 公共交通による移動は、「路線バス」（5.4%）が最多である。

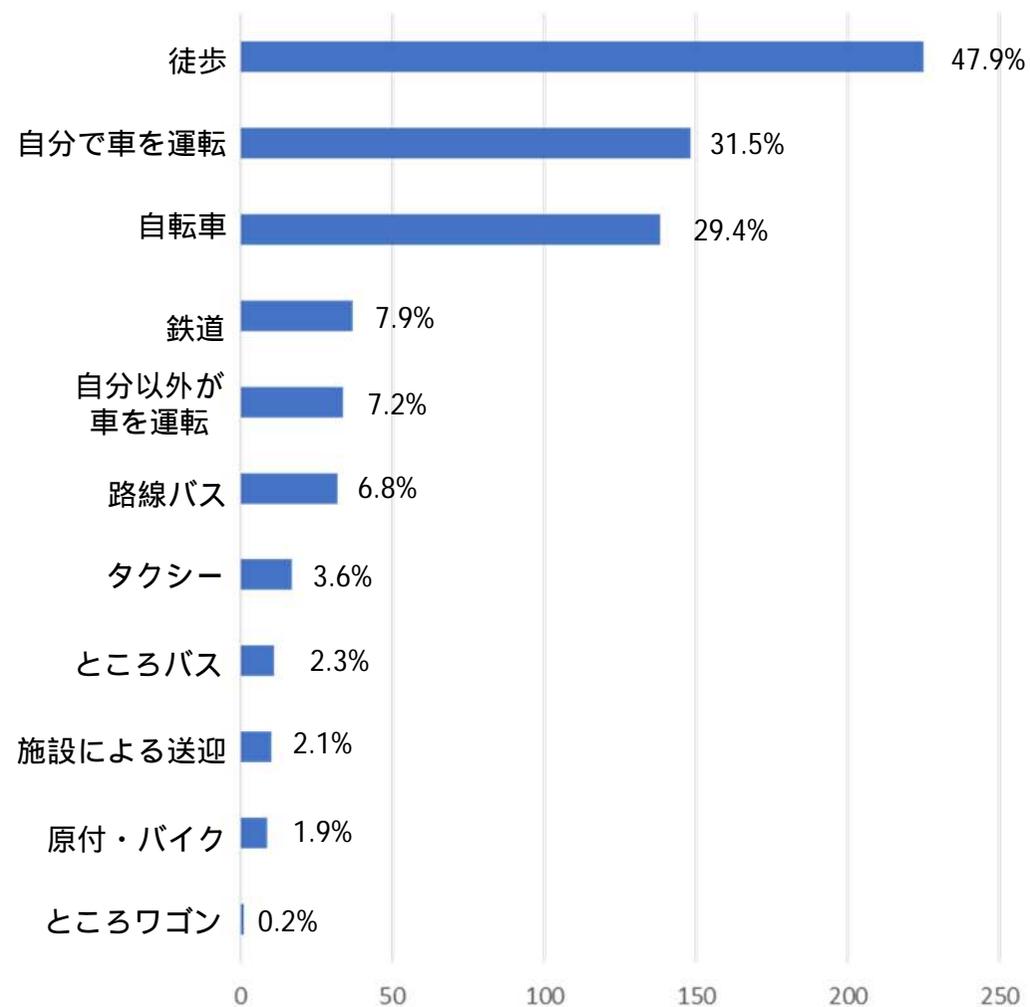


買い物に行くときの移動手段（複数回答） N=560

2 市民アンケート調査

日常生活における移動手段：通院

- 医療機関に行く（通院）回答者 = 470人
- 医療機関に行く際の移動手段として最も多いのは「徒歩」（47.9%）である。
- 「自分で車を運転」（31.5%）、「自転車」（29.4%）が続く。
- 公共交通による移動は、「鉄道」（7.9%）が最多である。
- 買い物に比べて、タクシーを利用する割合が大きくなっている。（0.9%→3.6%）
- 買い物の場合と似た傾向だが、移動手段に占める公共交通の割合が少し大きい。



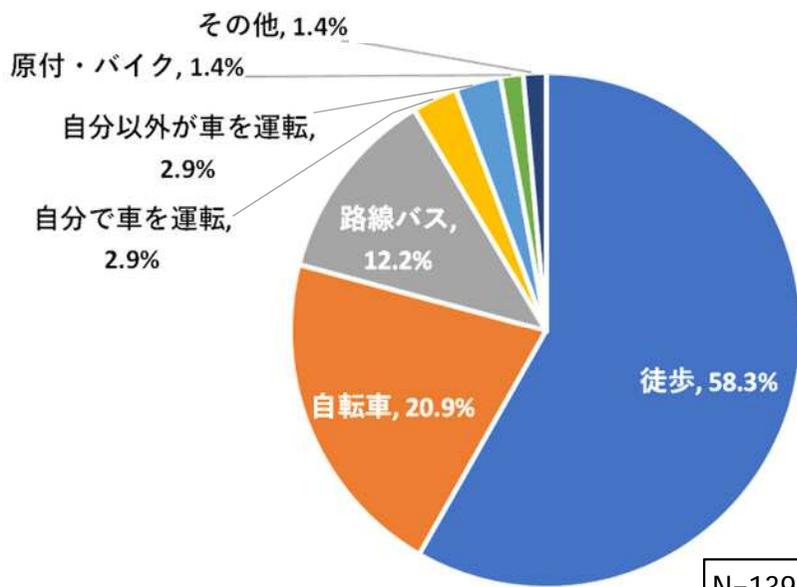
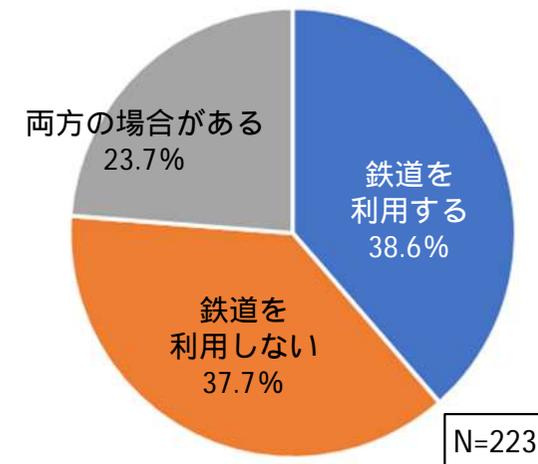
医療機関に行くときの移動手段（複数回答） N=470

2 市民アンケート調査

日常生活における移動手段：通勤・通学

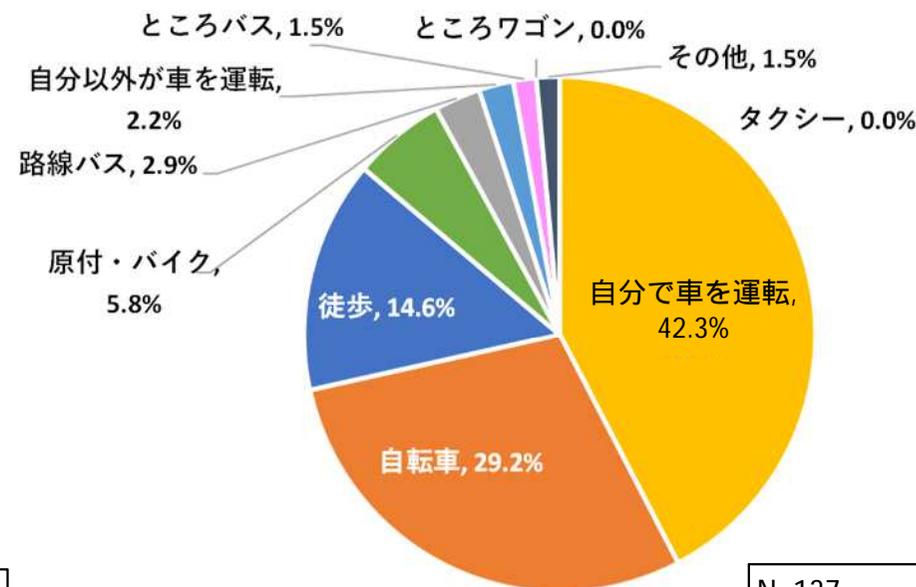
- 通勤・通学する回答者 = 223人
- 通勤・通学に「鉄道を利用する」と「利用しない」の回答数はほぼ同数である。
- 約2割が、鉄道を利用する時と、利用しない時の両方の場合がある。
- 自宅から鉄道駅までの移動手段として最も多い回答は、「徒歩」（58.3%）である。
- 自宅から鉄道駅までの移動手段として、12.2%が「路線バス」を利用しており、「徒歩」「自転車」に次いで3番目に多い。
- 「鉄道を利用していない」と回答した市民では、自宅から職場・学校まで「自分で車を運転」（42.3%）が最も多い。

通勤・通学での鉄道の利用



鉄道を利用する場合
駅までの移動手段

N=139
(鉄道を利用する86
+ 両方の場合がある53)



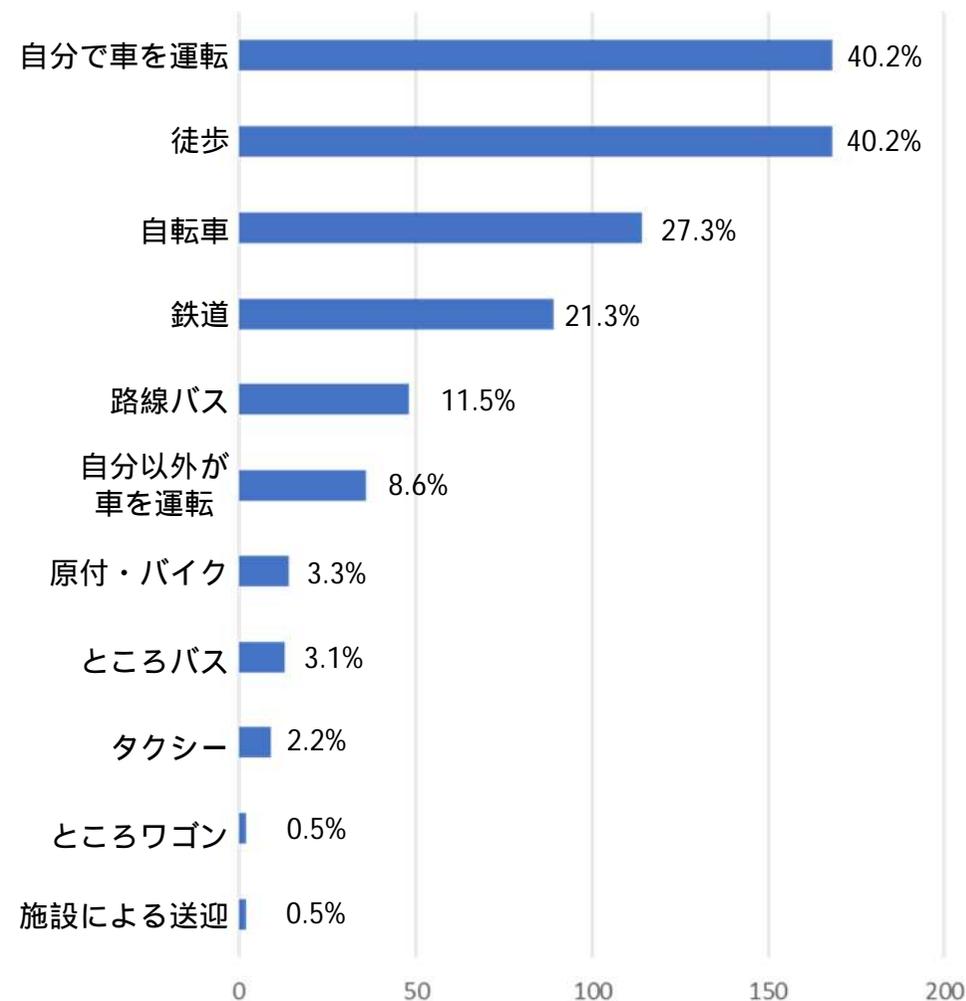
鉄道を利用しない場合の
移動手段

N=137
(鉄道を利用しない184
+ 両方の場合がある53)

2 市民アンケート調査

日常生活における移動手段：私用（趣味など）のおでかけ

- 私用（趣味など）で出かける回答者 = 418人
- 私用（趣味など）で出かける際の移動手段として最も多いのは「自分で車を運転」と「徒歩」が40%程度で並んでいる。
- 「鉄道」、「路線バス」を利用する割合は、買い物や通院での外出に比べて大きい。



私用（趣味など）で出かけるときの
移動手段（複数回答）

N=418

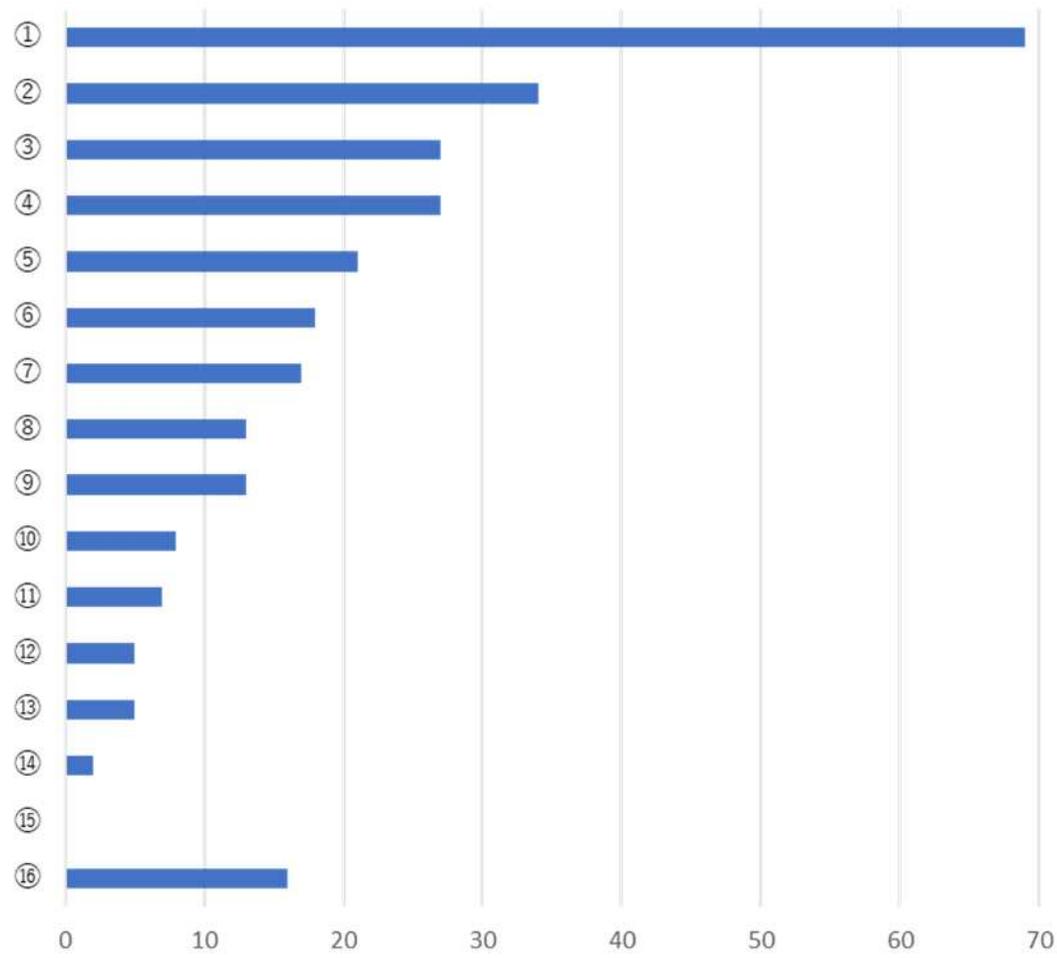
2 市民アンケート調査

路線バスについて改善して欲しいこと

- 路線バスを利用している人が改善して欲しい項目として「運行本数が少ない」が最も多く、次いで、「乗りたい時間に運行していない」であることから、利用時間帯の利便性が求められている。
- 「乗場に屋根やベンチがない」が4番目に多い。

N=163

運行本数が少ない (42%)
乗りたい時間に運行していない (21%)
行きたい方向に路線がない (17%)
乗場に屋根やベンチがない (17%)
 発着時刻の遅れ
 運賃が高い
 バス停(乗り場)が遠い
 乗りたいバスが今どこにいるかわからない
 バス停の待ち合い環境が悪い
 目的地に着くまで時間がかかる
 乗り換え・乗り継ぎが不便
 目的地へのルートがわからない
 発着時刻がわからない
 乗り降りしにくい(段差)
 乗り方がわからない
 その他



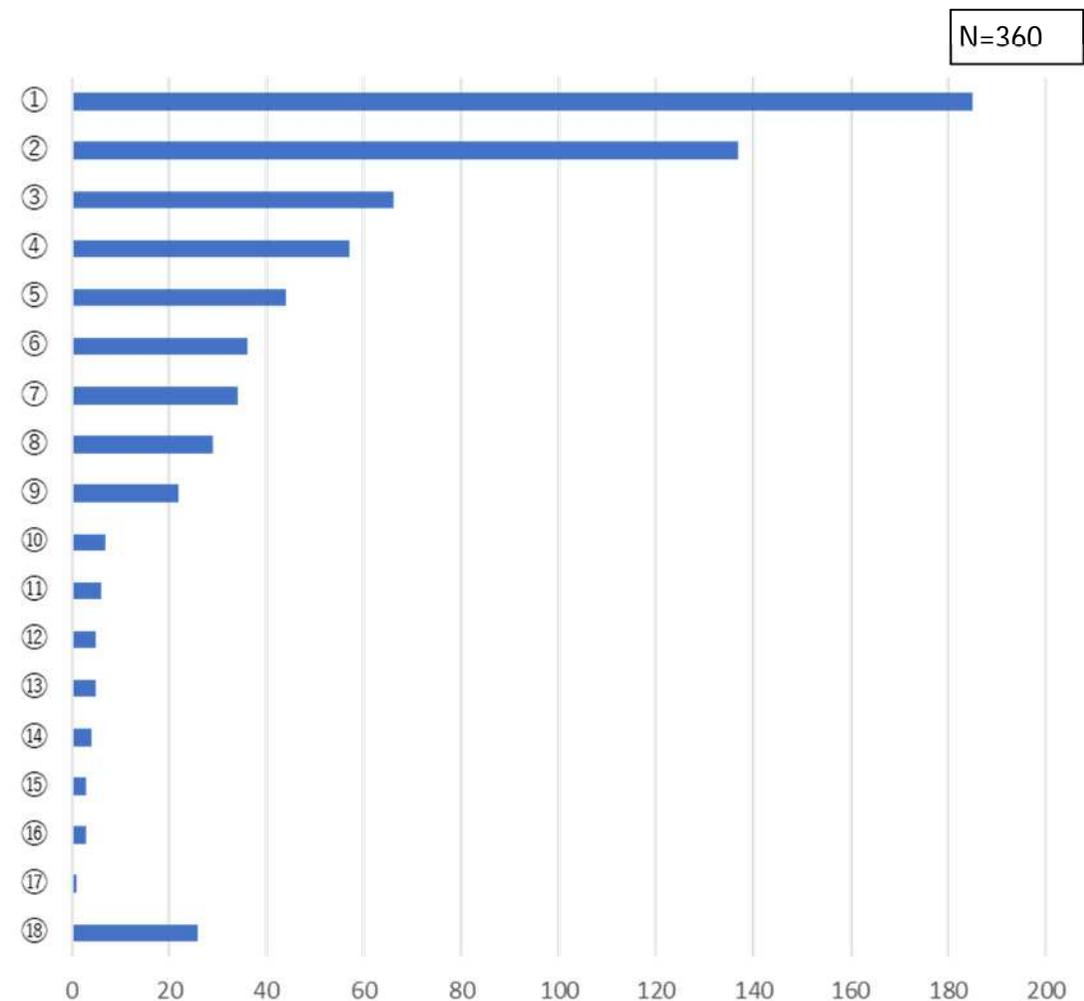
2 市民アンケート調査

路線バスを利用しない理由

- 路線バスを利用しない理由として、「利用する必要が無い」が最も多い。
- 「自家用車の方が便利」「運行本数が少ない」「行きたい方向に路線がない」が続く。
- 「運行本数が少ない」は、利用している人の改善して欲しい項目でも上位にある。

利用する必要が無い (51%)
自家用車の方が便利 (38%)
運行本数が少ない (18%)
行きたい方向に路線がない (16%)

乗りたい時間に運行していない
 バス停(乗り場)が遠い
 目的地に着くまで時間がかかる
 目的地へのルートがわからない
 発着時刻がわからない
 乗り換え・乗り継ぎが不便
 乗場に屋根やベンチがない
 運賃が高い
 乗りたいバスが今どこにいるかわからない
 乗り方がわからない
 発着時刻の遅れ
 バス停の待ち合い環境が悪い
 乗り降りしにくい(段差)
 その他



2 市民アンケート調査

ところバス・ところワゴンについて改善して欲しいこと

- ところバス・ワゴンを利用している人が改善して欲しい項目として「運行本数が少ない」が最も多く、「乗りたい時間に運行していない」が続くことから、利用時間帯の利便性が求められている。
- 上位5項目は、路線バスの改善して欲しい項目と同じである。

運行本数が少ない (87%)

乗りたい時間に運行していない (52%)

行きたい方向に路線がない (29%)

乗場に屋根やベンチがない (19%)

発着時刻の遅れ

発着時刻がわからない

目的地へのルートがわからない

乗りたいバスが今どこにいるかわからない

目的地に着くまで時間がかかる

バス停の待ち合い環境が悪い

乗り換え・乗り継ぎが不便

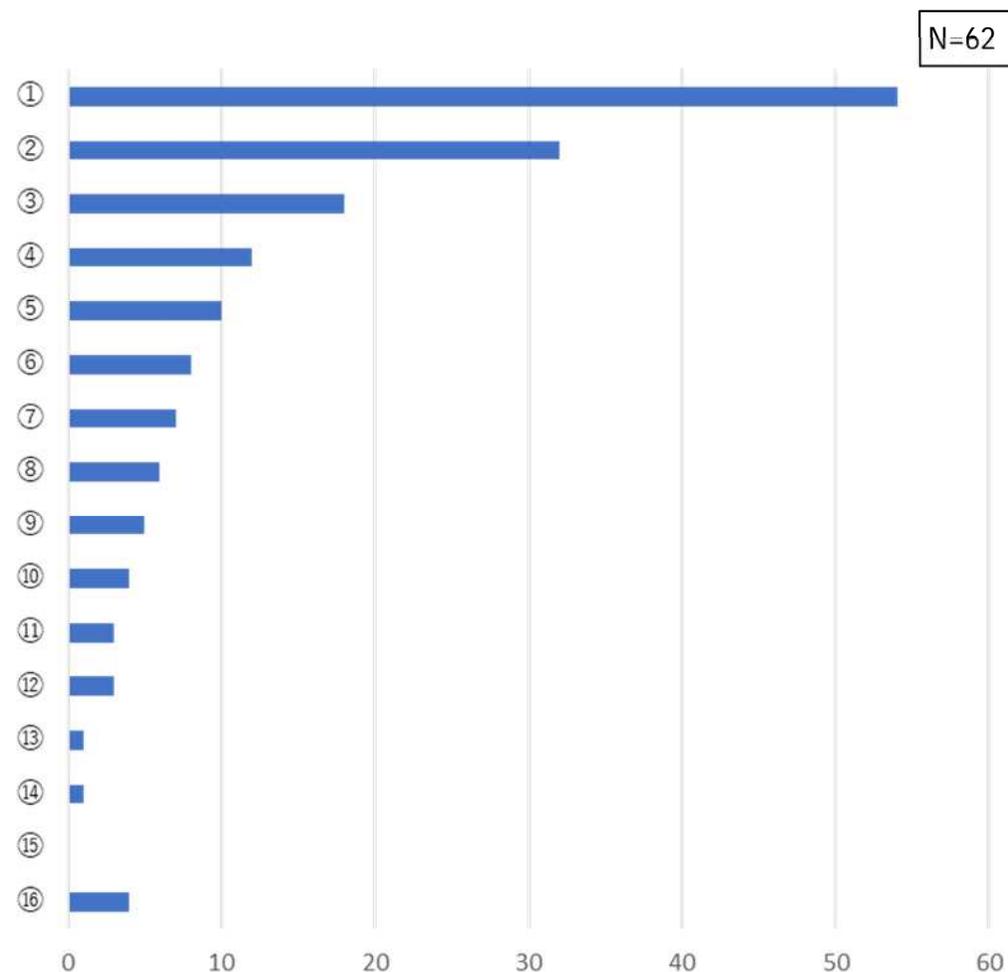
バス停(乗り場)が遠い

乗り降りしにくい(段差)

乗り方がわからない

運賃が高い

その他



2 市民アンケート調査

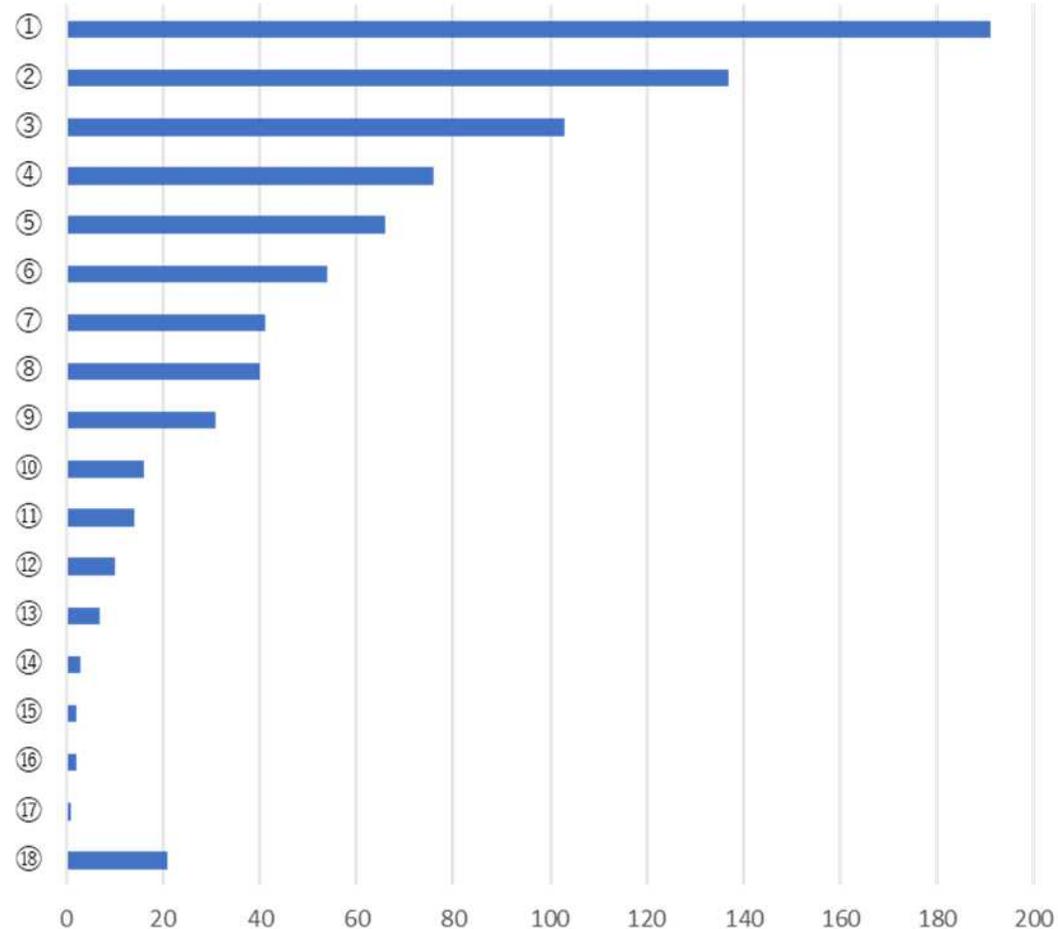
ところバス・ところワゴンを利用しない理由

- ところバス・ところワゴンを利用しない理由として、「利用する必要が無い」が最も多く、次いで「自家用車の方が便利」「運行本数が少ない」であり、上位3項目は路線バスを利用しない理由と同じである。
- 「運行本数が少ない」は利用している人の改善して欲しい項目でも上位である。
- 「目的地へのルートがわからない」が4番目である。

N=413

利用する必要が無い (46%)
自家用車の方が便利 (33%)
運行本数が少ない (25%)
目的地へのルートがわからない (18%)

乗りたい時間に運行していない
 行きたい方向に路線がない
 バス停(乗り場)が遠い
 目的地に着くまで時間がかかる
 発着時刻がわからない
 乗り方がわからない
 乗りたいバスが今どこにいるかわからない
 乗り換え・乗り継ぎが不便
 乗場に屋根やベンチがない
 発着時刻の遅れ
 運賃が高い
 乗り降りしにくい(段差)
 バス停の待ち合い環境が悪い
 その他



2 市民アンケート調査

調査結果のまとめ

- 買い物、通院は、徒歩圏で済ませている市民の割合が大きい。
 - 通勤・通学では、路線バスと鉄道を乗り継いでいる市民もいる。
 - 趣味等で出かける時には、買い物や通勤より公共交通を利用する割合が大きくなる。
 - いずれの目的でも、30～40%は自家用車を利用している。
 - 路線バス、ところバス・ところワゴンについて、利用者が最も改善して欲しい点は「運行本数が少ない」ことである。
 - 「乗り場に屋根やベンチがない」ことも、利用者が改善を求める点である。
 - 路線バス、ところバス・ところワゴンを利用しない理由も、「運行本数が少ない」が多い。
 - ところバス・ところワゴンは、「目的地へのルートがわかりにくい」ため利用していない市民がいる。
-
- 需要に見合った便数が運行していて、「乗りたいときに」利用できる
 - 乗り継ぎや待合の環境を整っていて、「快適に」利用できる
 - ルートやダイヤの情報が入手しやすく、利用できることが「わかる」

▶▶ 移動手段の選択肢が広がる ▶▶ 外出機会が増える

3 ところバス利用状況調査

調査概要

調査目的	各コースの利用状況及び利用目的や頻度を把握
調査対象	全路線全便（6コース・54便）
調査方法	全便に調査員が乗車し、利用者に対して、アンケート調査を実施
調査日	2021年11月25日(木)～26日(金)

調査項目

利用属性	性別、年齢、職業、運転免許の有無
利用区間	乗降バス停
利用実態	利用目的、利用頻度、運賃支払い方法

調査イメージ



1)乗車時：調査票を手渡し配布



2)降車時：調査票を回収
(利用者数に応じて直接聞き取り)

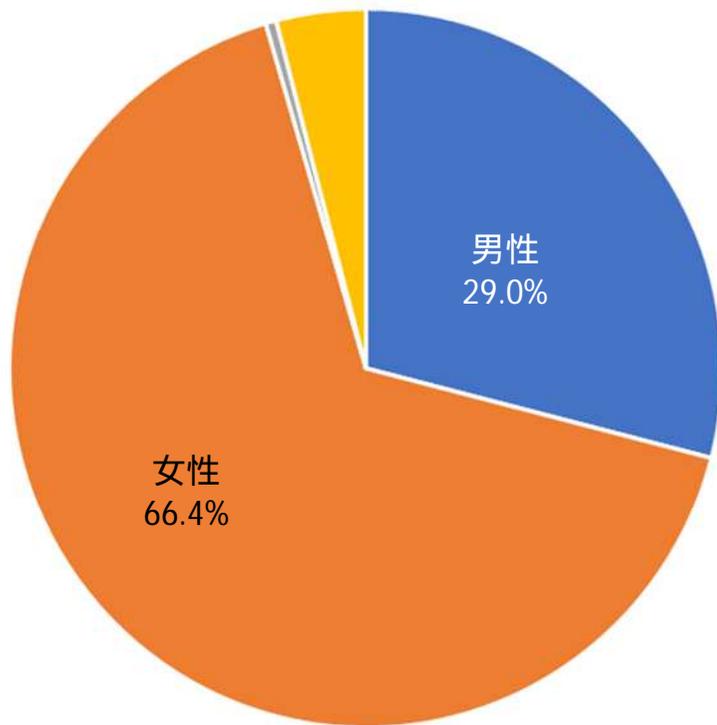


3 ところバス利用状況調査

利用者属性

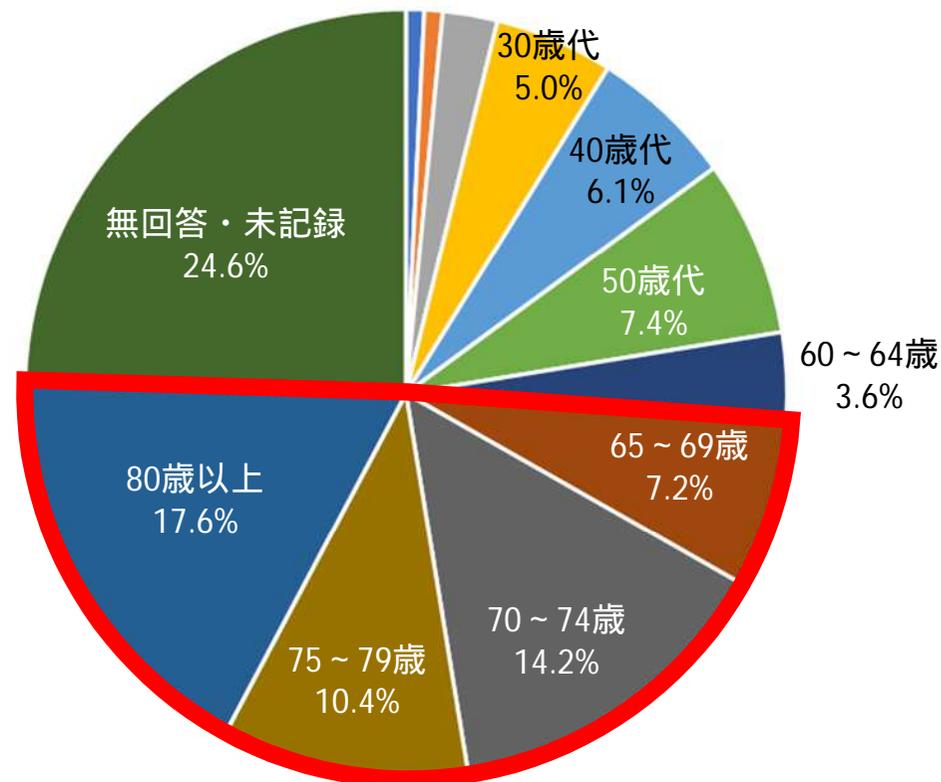
- 調査日の全路線全便の利用者数は、1,034人である。
- 利用者の性別は、女性が約7割を占めている。
- 利用者の年齢は、65歳以上の高齢者が約5割を占めている。

回答しない0.5%、無回答 4.1%



利用者の性別 N=1034

17歳以下 : 0.8%
 18~22歳 : 0.8%
 23~29歳 : 2.3%

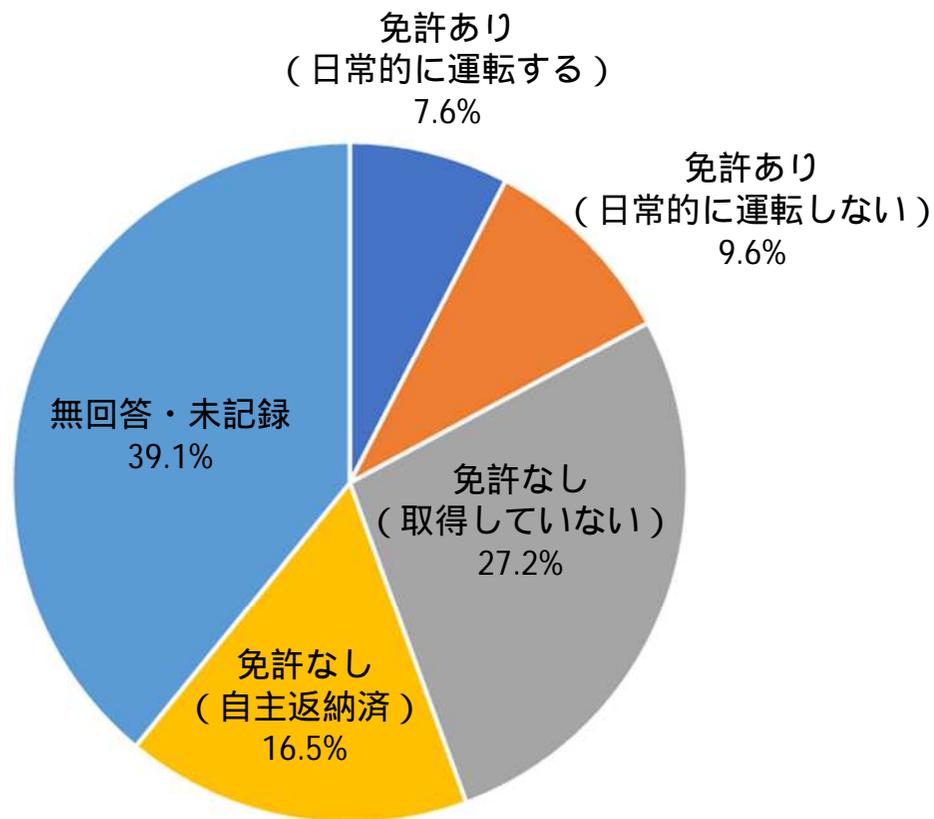


利用者の年齢 N=1034

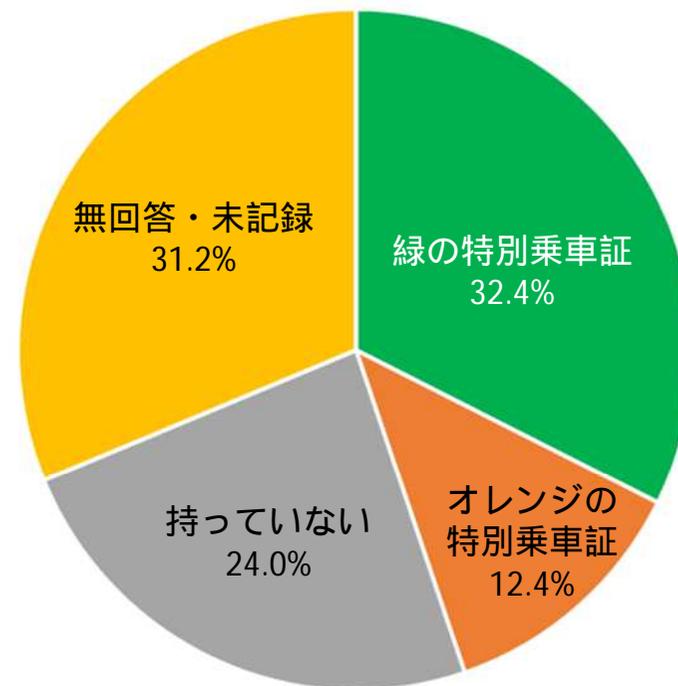
3 ところバス利用状況調査

利用者属性

- 運転免許証を持っていない方が、少なくとも利用者の4割以上を占めている。
- 免許を持っていても日常的に運転しない方を合わせると5割以上を占め、ところバスは、自動車を運転しない市民にとって必要な移動手段である。
- 利用者の3割は「緑の特別乗車証」、1割は「オレンジの特別乗車証」を使用している。



運転免許証の有無 N=1034

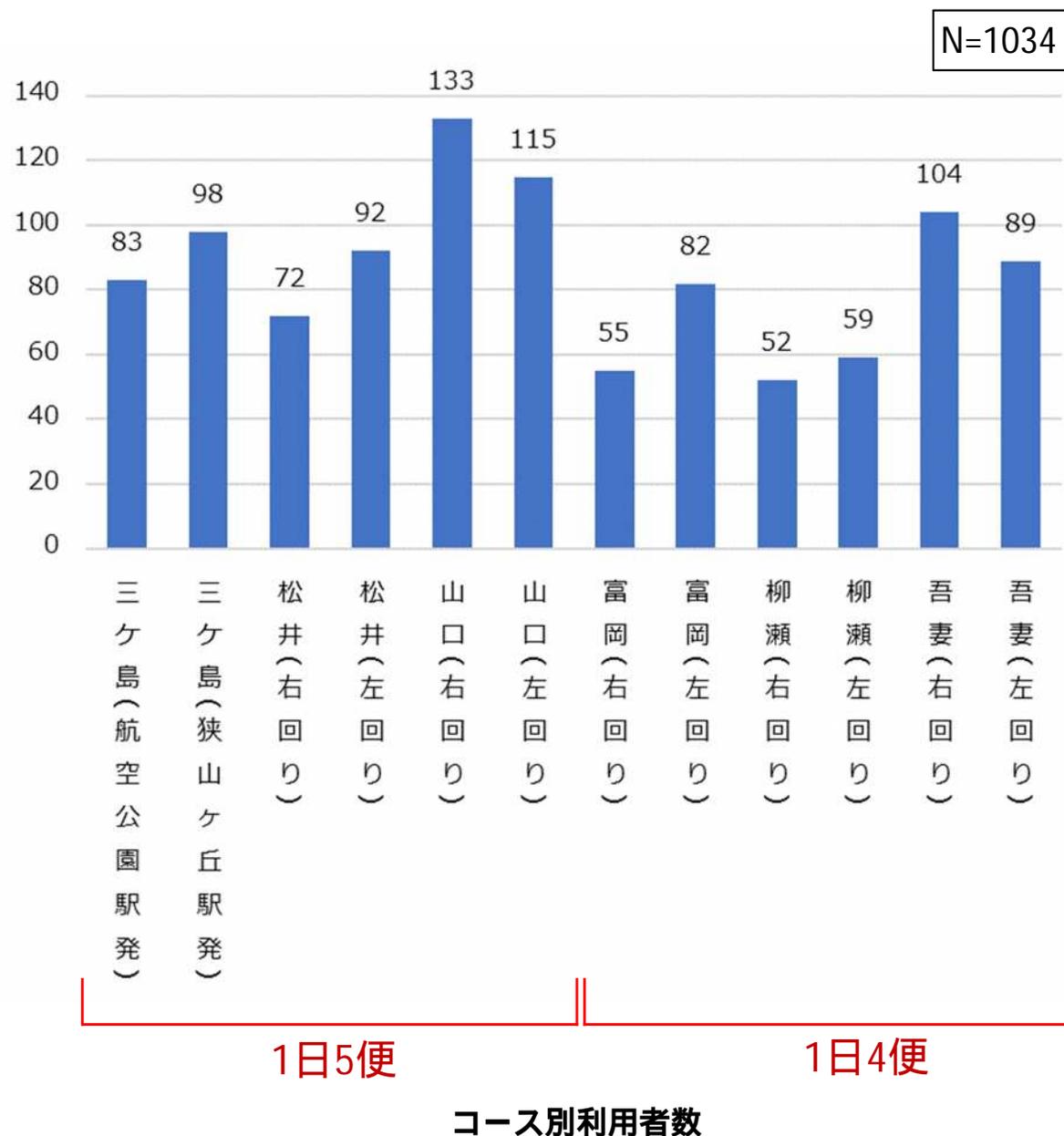


特別乗車券の有無 N=1034

3 ところバス利用状況調査

利用者数

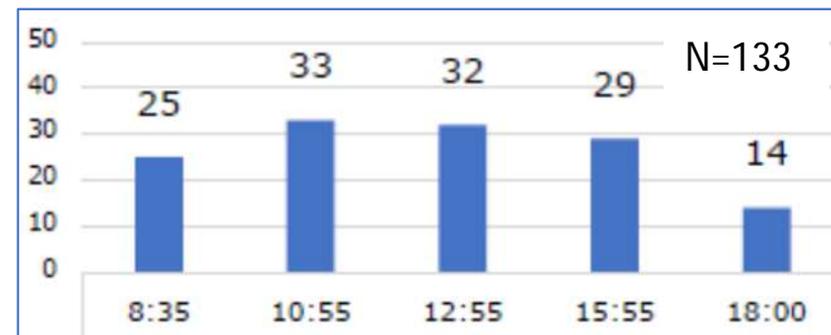
- 1日当たりの利用者数は、市街地を經由する山口循環コース、吾妻循環コースで多い傾向である。
- 富岡循環コース（右回り）や柳瀬循環コース（右回り）は、1日当たりの利用者数が50人程度であり、最も利用者数が多い山口コース（右回り）の半分以下である。



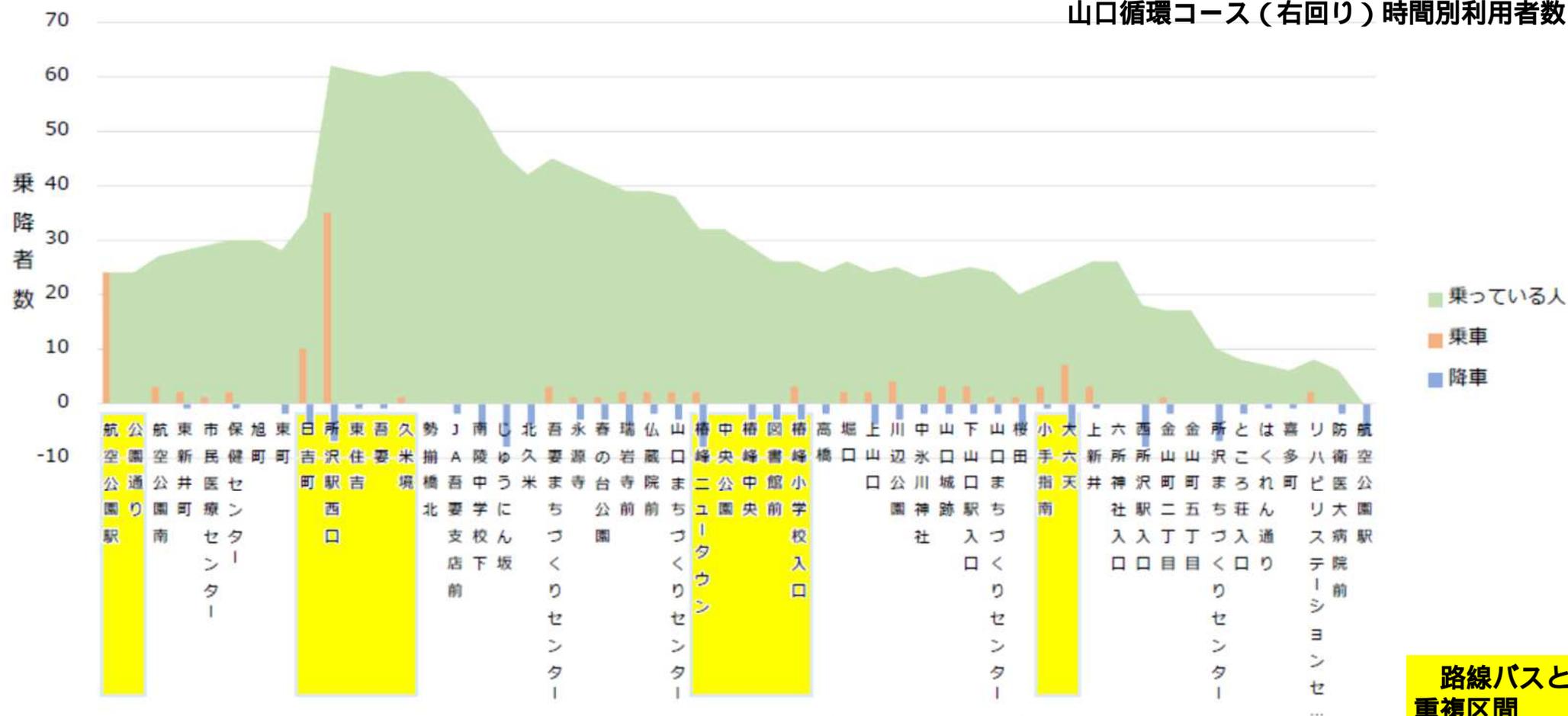
3 ところバス利用状況調査

山口循環コース（右回り）

- 時間が遅い第5便は、他に比べて利用者が少ない。
- 乗車は、航空公園駅、所沢駅が主である。
- 高低差がある地域のため、徒歩や自転車の代わりにバスを利用していることが考えられ、コース全体を通して乗り降りがある。



山口循環コース（右回り）時間別利用者数



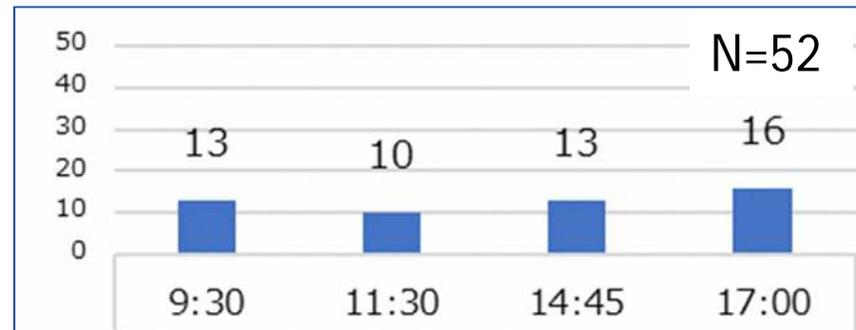
山口循環コース（右回り）の利用区間図（5便合計）

路線バスとの重複区間

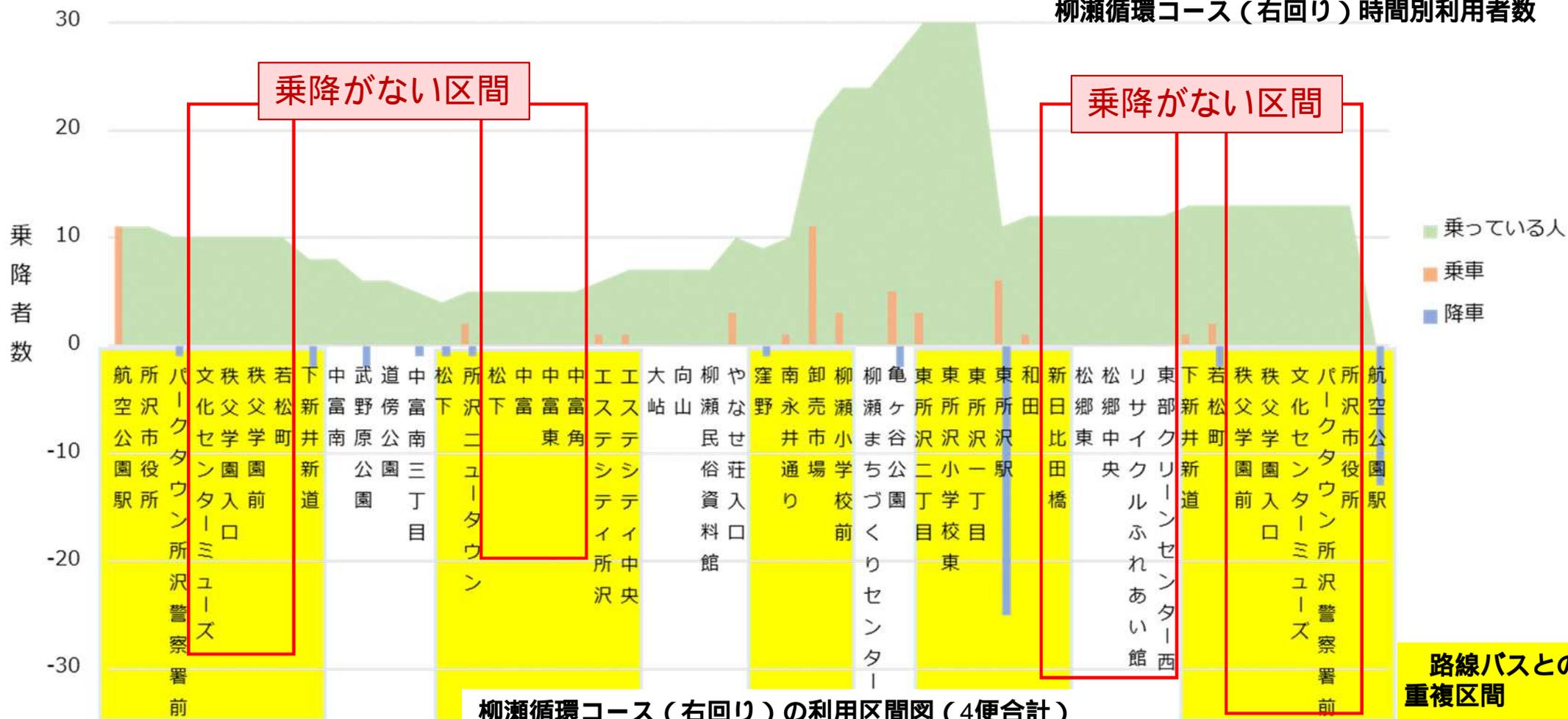
3 ところバス利用状況調査

柳瀬循環コース（右回り）

- 運行時間に関係なく10名/便以上の利用ある。
- 利用者の乗降がない区間が複数ある。
- 柳瀬地区内から東所沢駅までの利用が多い。



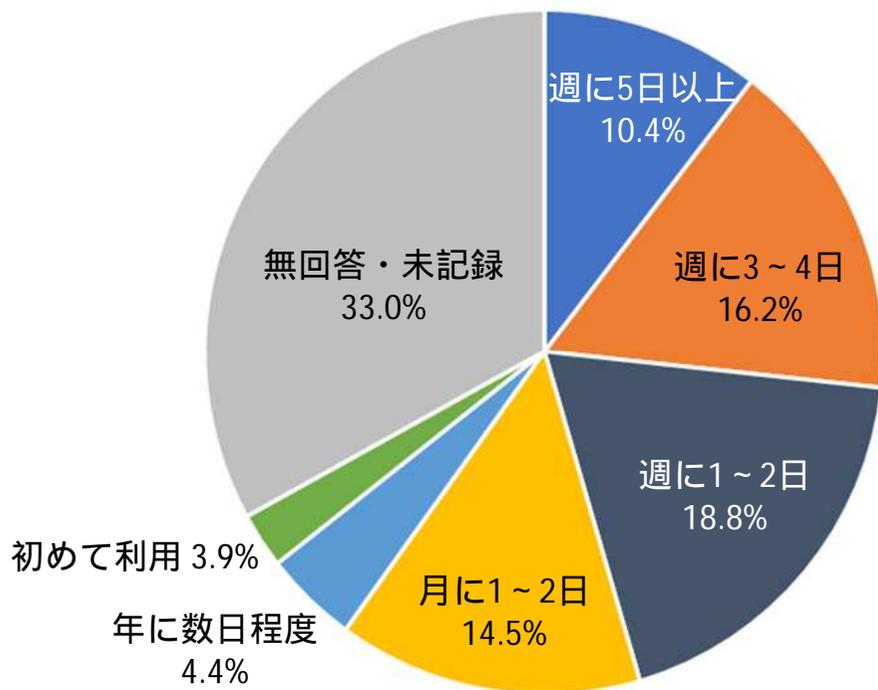
柳瀬循環コース（右回り）時間別利用者数



3 ところバス利用状況調査

利用実態（利用頻度・利用目的）

- 利用頻度で最も多いのは「週に1～2日」（18.8%）である。
- 「週5日以上」「週に3～4日」を合わせると約25%で日常的に利用している方がいる。
- 利用目的は、主に「買い物」「通院」「通勤」「公共施設の利用」である。



利用頻度 N=1034



利用目的（複数回答） N=1034

3 ところバス利用状況調査

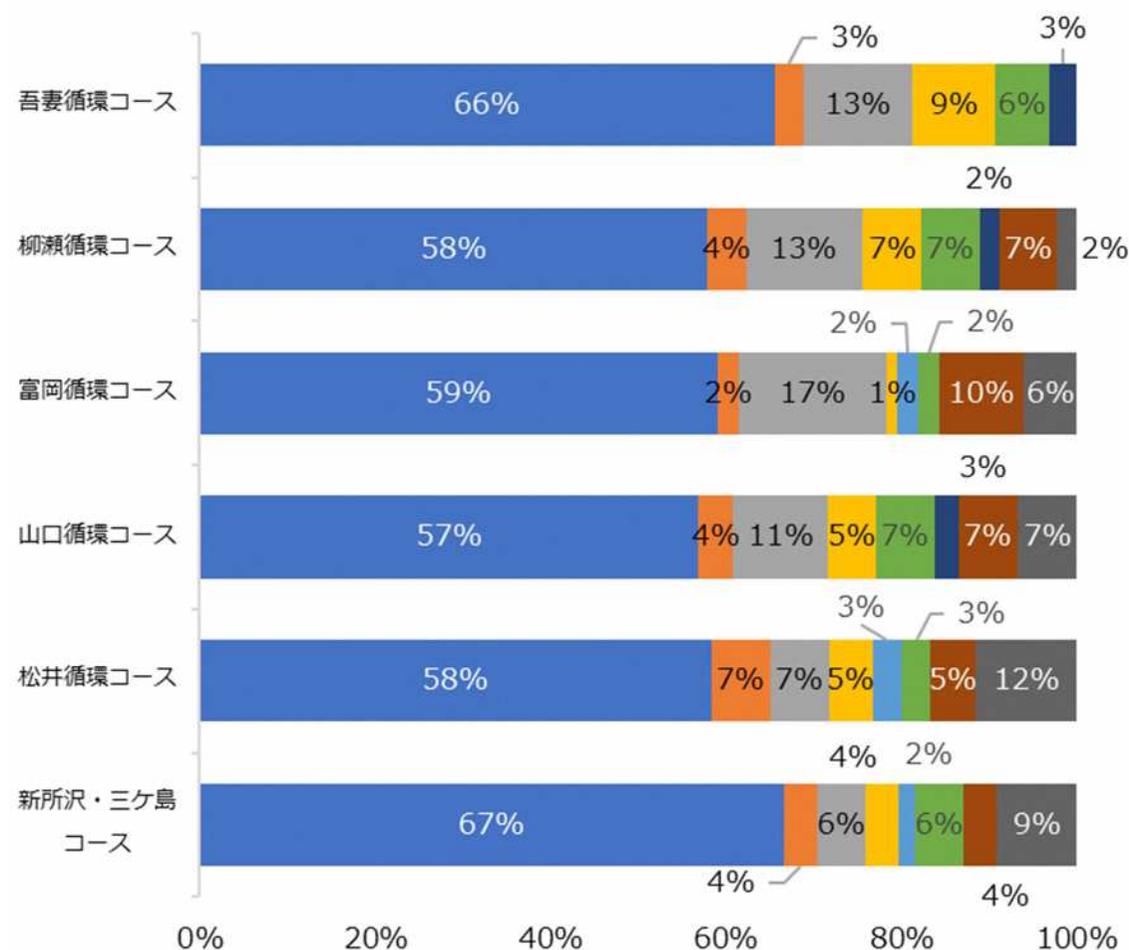
その他 意見要望

- 各コースに共通して「運行本数が少ない・増やしてほしい」という意見が半数以上を占めている。
- 「遅延が多い」や「案内・情報が不足している」等といった意見がある。

→市民アンケートの結果と一致

- 柳瀬循環、富岡循環、山口循環の各コースでは、「無いと困る・続けてほしい」の意見が約1割ある。

→利用ニーズに合う公共交通として 確保・維持



- 数が少ない・増やしてほしい
- ルートについて
- 遅延が多い
- 案内・情報が不足
- 料金・支払方法について
- バスが小さい・席が少ない
- 運転・ドライバーについて
- 無いと困る・続けてほしい
- その他

3 ところバス利用状況調査

調査結果のまとめ

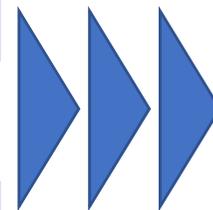
- 1日当たりの利用者数は、コースにより倍以上の差がある。
- 1つのコースの中でも、利用の多い区間、少ない区間がある。
- 高齢者、女性、自動車を運転できない・運転しない層の利用が多い。
- 買い物、通院、通勤などの日常生活における、繰り返しの利用がある。

利用者の視点では

生活する上で必要不可欠な移動手段

市（事業者）の視点では

利用がないルート、時間帯が存在



地域ごとの利用ニーズをとらえて
利便性と効率性を向上

4 公共交通事業者ヒアリング調査

調査概要

調査目的	公共交通事業者が抱える経営上の課題や、利用実態の把握
調査対象	路線バス・ところバス運行事業者（西武バス） ところワゴン運行事業者（西武ハイヤー） 所沢市タクシー協議会（代表：所沢交通）
調査方法	対面によるヒアリング
調査日	2021年11月～12月のうち3日間

調査項目

利用状況	利用者の属性、利用目的、新型コロナウイルスによる影響
運行上の課題	運転士の確保、運行上の安全面や待合環境

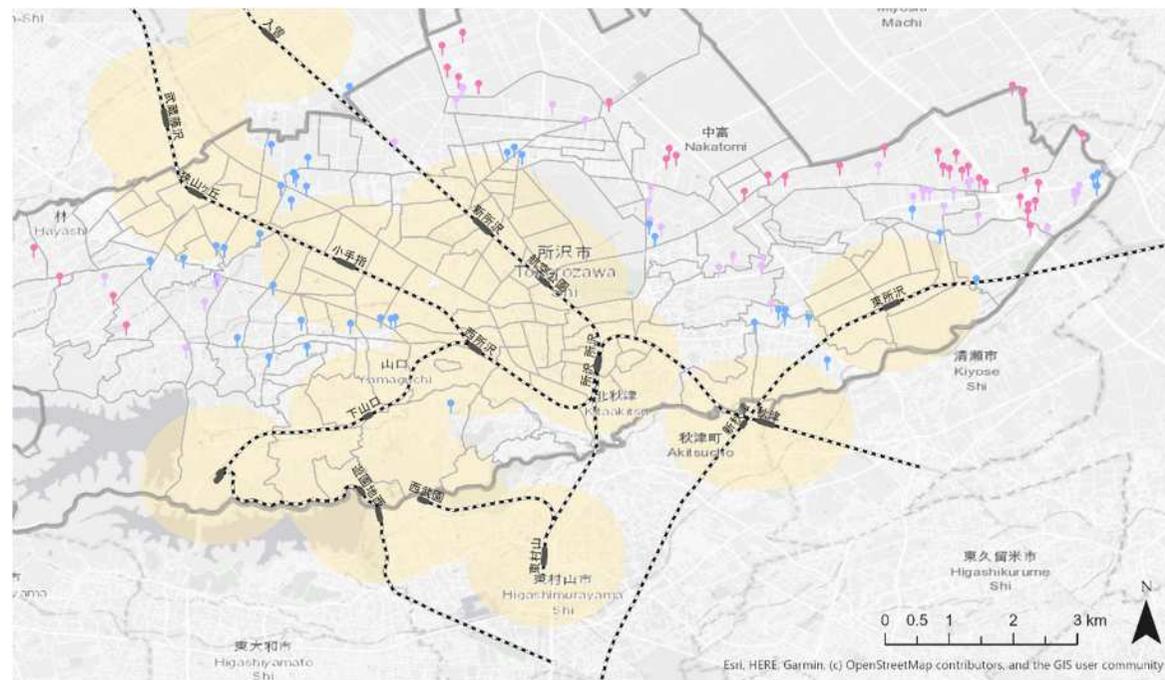
4 公共交通事業者ヒアリング調査

	路線バス・ところバス	ところワゴン	タクシー
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用者数は、新型コロナウイルスの影響により約2割減少 ◆ 2021年10月の緊急事態宣言明け後に徐々に利用者数は戻りつつある ◆ 路線バスの主な利用目的は通勤通学であり、利用者の9割は交通系ICカードを利用している 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用者数は、緊急事態宣言中も維持または増加 ◆ 利用者に男女差はなく、高齢者が多い ◆ よく利用される時間帯は平日午前から昼過ぎの利用が多く、狭山ヶ丘駅での乗降が多い ◆ 主な利用目的は通院や買い物である 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用者数は、新型コロナウイルスの影響により約3割～4割減少 ◆ 利用者に男女差はなく、昼間は高齢者が多く、深夜は20代の若年層が多い ◆ 主な利用目的は通院や駅へのアクセス、買い物の利用である ◆ 事業者側でも配車アプリの導入を進めており、配車の約1/3がアプリからである
現在抱えている運行に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 運転士の確保は、新規募集に対する応募が少なく、社内の高齢化が進んでいる ◆ 停留所の待合環境は、上屋とベンチの設置に対する要望は多いが、現在の経営状況だと設置は厳しい ◆ シェアサイクル等も含めた地域公共交通の適切な役割分担を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 運転士の確保は、平均年齢が経年的に58～59歳を推移 ◆ 停留所の安全面は、注意が必要な箇所を全体で共有し運転士の教育を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 運転士の確保は、平均年齢が57歳と高齢化が進んでいる ◆ 相乗りやデマンドタクシーの導入は、全国的な動きや所沢市の公共交通の状況を見ながら慎重に判断する必要がある ◆ ところワゴンの拡大エリアではタクシーとの共存を図る必要がある

5 市内企業・事業所アンケート調査

調査概要

調査目的	一般企業・事業者が保有する地域の輸送資源を把握する
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 108件 回答37件 ・ 従業員数50名以上 ・ 市内の全駅から半径1km圏外の事業所
調査方法	調査票を郵送し、メールで回収
調査日	2021年12月9日(木) ～ 12月28日(火)



調査対象事業所の立地状況

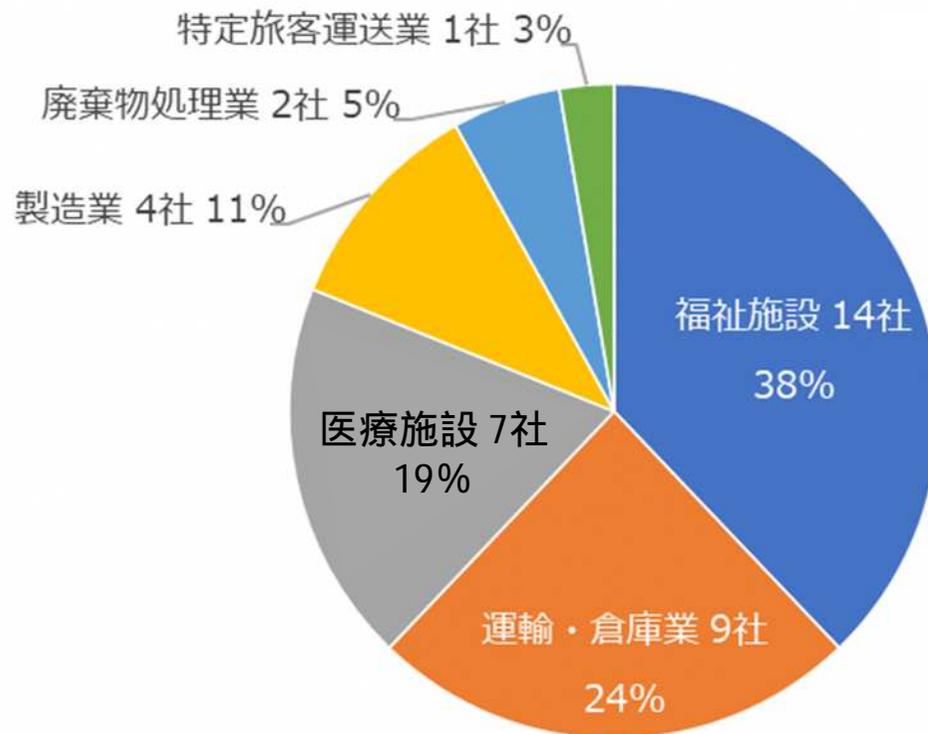
調査項目

送迎車両の運行実態と運行可能性	送迎車両の運行の有無、送迎車両の運行概要
-----------------	----------------------

5 市内企業・事業所アンケート調査

事業所の業種

- 回答した事業所の業種としては、「福祉施設」が全体の約4割と最も多く、次に「運輸・倉庫業」が多い。



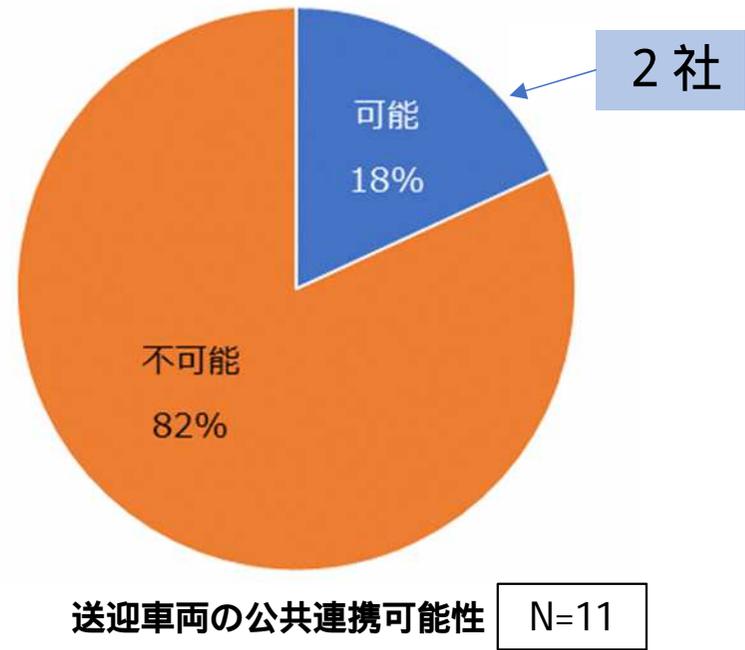
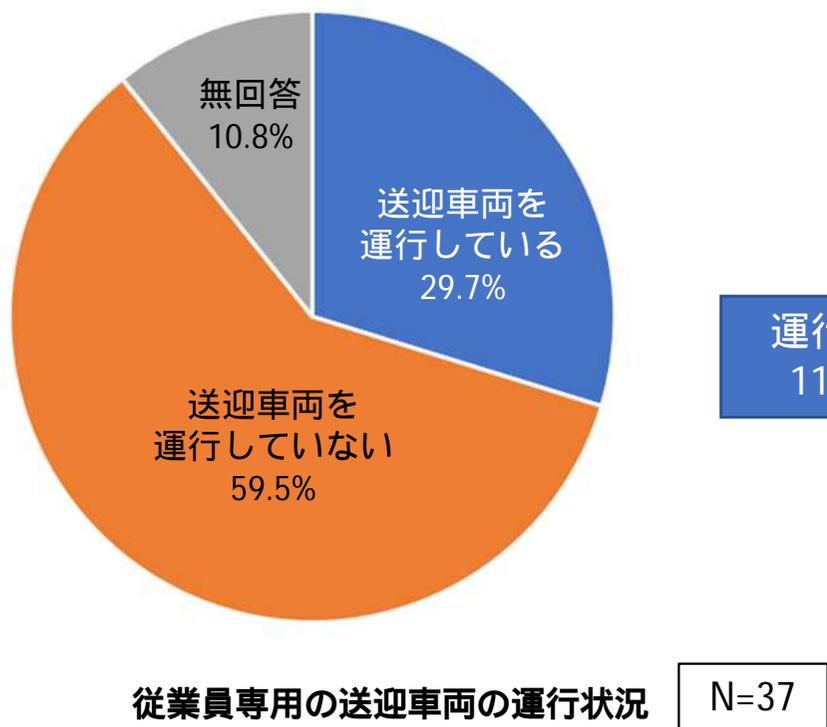
回答事業所の業種

N=37

5 市内企業・事業所アンケート調査

送迎車両の運行実態

- 送迎車両を運行している事業所は、回答があった事業所の3割(11社)であり、その全てが従業員に対しては無料で運行している。
- 送迎車両に従業員以外も乗車する「乗合化」に可能と答えた事業所は2社である。



6 各種調査結果からみた課題

所沢市の公共交通に関する問題

公共交通の不便さ、利用しづらさ

車や運転免許証を持たない市民・手放した市民の移動手段の不足

ところバスには利用が無い区間が存在

新型コロナウイルス感染拡大等による公共交通離れ

運転士の高齢化
若い運転士の確保の難しさ

人口減少による行政サービス維持の困難さ
地球温暖化の進行

課題（取り組むべきテーマ）

生活に必要な移動手段の確保

スムーズな乗継ぎ、快適な待合環境の整備

移動ニーズに合わせた効率的な運行

「利用する = 地域公共交通を支える」という意識の浸透

公共交通同士の連携・役割分担

外的要因による利用者数の急激な増減への備え・対応

将来の運転士不足への対応

コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造

7 今後のスケジュール

- 今後は、現況整理及び各種調査結果から得られた課題を基に、地域公共交通のあるべき姿（基本方針）及び目標の設定、具体的な公共交通施策や事業の検討を進める。

